

県がスマート農業実証報告会 大垣

県が全国農業協同組合連合会県支部(JA全農岐阜)などと取り組む「スマート農業」の実証実験の結果報告会が、大垣市松町の市西部研修センターで開かれ、農家ら約50人が最先端技術への理解を深めた。

昨年5〜10月に同市内で行った実証実験では、ほ場の土壌状態から農地の生産力の可能性を探ったり、苗の生育状況を把握したりするために、衛星画像を元に人工知能(AI)で分析するソフト「ザルビオ」を利用

用。AI分析に基づいて堆肥量を調整し、収穫量や品



実証実験の成果が示された報告会。大垣市松町、市西部研修センター

質を均一化することを目指した。

報告会ではJA全農岐阜の職員が、実験で活用したマップやデータを示し「収量差が少なくなった」と手応えを語った。生産力の可能性が高いエリアでの堆肥の量を減らす実験でも「最低限の出荷規格をクリアできた」と話した。

一方で「農家がデジタルツールを使いこなせるか」などといった今後の課題も指摘。ソフトを活用した傷病リスクの予測や気象予測の機能紹介もあった。

(西垣剛大)